

## 活用技術

平成21年度

## ぶどう「シャインマスカット」種なし栽培の花穂整形と着粒安定技術

[要約] ぶどう「シャインマスカット」の種なし栽培では花穂整形により果房重や房型が変わるが、1粒重や糖度への影響は少ないことから出荷販売方法にあった整形方法を選択することができる。また1回目のジベレリン処理時にホルクロフェニロン液剤を加用することにより、果房先端部の着粒不良を防止できる。

農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科

連絡先

TEL 0254-27-5555

FAX 0254-27-2659

## [背景・ねらい]

ぶどう「シャインマスカット」は食味良好で期待される新品種である。しかし登録後間もないため栽培管理も既存品種にならって行われている。そこで「シャインマスカット」種なし栽培のための花穂整形方法を示し安定生産を可能とする。

## [成果の内容・特徴]

## 1 花穂整形方法と果房形質

花穂整形方法により果房重や房型が変わるが、1粒重や糖度への影響は少なく、出荷販売方法にあわせて花穂整形方法を選択することができる(図1、図2、表1)。

## 花穂整形例

- ・花穂先端部を3.5cmに整形すると果房重500g程度、着粒数43粒程度の果房形質となる。
- ・花穂先端部を5.0cmに整形すると果房重600g程度、着粒数58粒程度の果房形質となる。

## 2 花穂の特徴と着粒安定方法

- (1) 1花穂中の開花期間が長引くため果房先端部が着粒不良となりやすい。そのためホルクロフェニロン液剤を1回目のジベレリン処理時に加用することで、着粒不良を防止できる(図1、図3)。
- (2) 花穂先端部が帯状化した異常花穂の発生が認められ、花穂先端部が利用できない場合がある。その場合、第二花穂または岐肩部を利用することができる(図1)。

## [成果の活用面・留意点]

- 1 本試験結果は長梢せん定露地栽培樹での試験結果である。
- 2 第二花穂または岐肩部を利用する場合、開花期がやや異なるためジベレリン処理を別けて行わなければならない場合がある。
- 3 本試験は、ブドウ系統適応性・特性検定試験における樹(ウイルス; GRSPaVを保毒)を供試して行った結果である。

[具体的データ]



図1 種なし栽培における花穂整形方法

先端部全て利用。  
ホルクロルフェニユロン液剤を使用する。

注)先端部に花らいが密集している場合は1cm程度切除。



花穂整形時 3.5cm 果房重 505g、着粒数 40、粒重 12.5g  
花穂整形時 5.0cm 果房重 613g、着粒数 55、1粒重 11.1g

図2 収穫時の果房例

表1 花穂整形が果房形質と果実品質に及ぼす影響(H18、H19 2カ年平均値)

花穂長	果房重 (g)	房長 (cm)	房幅 (cm)	軸長 (cm)	段数	着粒数	1粒重 (g)	糖度 (Brix)	酒石酸含量
3.5cm	488.5	13.7	10.0	8.9	13.1	42.8	11.6	22.0	0.19
5.0cm	607.0	17.1	11.0	11.6	17.8	57.7	11.2	20.7	0.20

注)1回目満開3日後ジベレリン25ppm+ホルクロルフェニユロン液剤5ppm、  
2回目満開15日後ジベレリン25ppm、花穂先端切除無し

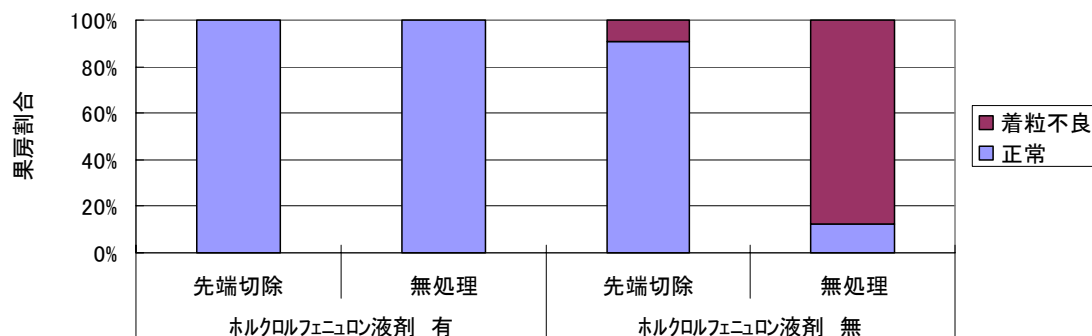


図3 1回目ジベレリン処理時のホルクロルフェニユロン液剤加用と花穂先端部の切除が果房先端部の着粒不良に及ぼす影響

[その他]

研究課題名：にいがた発園芸作物の有利販売とブランド力強化を支援する戦略的アイテム化技術の開発

予算区分：県単特研

研究期間：平成18年～20年度

発表論文等：なし